

第19回人流データ利活用研究会 議事概要

1. 日時 2022年7月20日(水) 13:00~15:00
2. 場所 総務省第二庁舎408室+Web会議
3. 議事内容
 - (1) 宿泊旅行統計調査シミュレーション(京都府、京都市)
 - 京都府での2022.3推計では、推奨パターン(Ⅰ固定②:実数で2019.10~)の乖離率が最大(-10.7%)となってしまったが、どの推奨パターンでも乖離率の絶対値は大体10%以内に収まっていた
 - 京都市での2022.3推計では、推奨パターン(Ⅲ対数前年同月比自動①:対数前年同月比で最低期間6か月)の乖離率が最大(9.1%)となってしまったが、どの推奨パターンも乖離率は10%以内に収まっていた
 - (2) 宿泊旅行統計調査シミュレーション(神奈川県、横浜市)
 - 神奈川県での2022.3の推計では、推奨パターン(Ⅲ対数前年同月比自動①:対数前年同月比で最低期間6か月)の乖離率が最小(0.075%)であり、6か月RMSPEによる推奨パターンの選定が有効に機能していた
 - 横浜市での2022.3推計では、推奨パターン(Ⅰ自動①:実数で最低期間6か月)の乖離率が最大(19.0%)であり、6か月RMSPEによる推奨パターンの選定が有効に機能していたとは言えないが、Ⅱ、Ⅲの乖離率は10%以内に収まっていた
 - (3) 宿泊旅行統計調査シミュレーション全国展開
 - 6か月RMSPEが小さく、決定係数が大きい都道府県は、乖離率は小さくなる傾向がある。しばらくは、これらに閾値をもうけて推計の信頼性を提示していく
 - 今後、都道府県を拡大し、毎月のデータを蓄積することにより、推計の信頼性を向上していくこととしたい
 - (4) 居住地情報を活用した宿泊旅行統計調査シミュレーション
 - 購入した基地局データの1つはGPSデータよりも若干連動性は低いが、統計値とは比較的良く連動していたことから当分析で適用することが可能と考えられる
 - 居住地情報を使用した指標値は、国勢調査を使用したものよりも連動性が高まっていた
 - (5) 延べ宿泊者数(統計値・指標値)の自己相関に関する対応
 - 統計値(宿泊旅行統計調査2次速報)と指標値(宿泊施設メッシュにおける「4時人口」-「国勢調査常住人口」)において12か月毎の周期性と自己相関が見られるものが多いが、一部のケースでは顕著には見られないものもあった
 - 12か月毎の周期性をなくすために前年同月比・対数前年同月比による分析を実施したが、一律的に推計精度が変わることはなかった
 - (6) その他
 - 次回開催は9/27(火)15:00~17:00とする

以上